

## 実体経済の動向

### ◇生産、出荷は3か月連続の増加、在庫は前月減少のあと増加

(生産—増加)

2月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比<sup>(注)</sup>、速報)は、+1.5%と前月(+0.6%)に比べ伸びを高めた(前年同月比-0.4%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

これを財別にみると、一般資本財が減少を続けたほか、資本財輸送機械も前月増加のあと減少を示したが、反面、耐久消費財、非耐久消費財が3か月連続の増加となったほか、生産財、建設財も前月減少のあと増加した。すなわち、耐久消費財は、小型自動車、二輪自動車、光学機械・同部品(カメラ)等が減少したものの、民生用電気機械(電子レンジ、電気冷蔵庫等)、暖ちゅう房熱機器(小型石油ストーブ)、ラジオ・テレビ・音響装置(カラーTV、ラジオ)等が引続き増加したため、全体でも前月に続く増加となった。非耐久消費財

は、浴用石けん、家庭用合成洗剤等が減少したが、一方ニットおよび繊維二次製品、灯油、揮発油、総ゴムぐつ等が増加したため、全体では小幅ながら前月に続く増加となった。

また生産財は、アルミ地金、鉄鋼素製品(銑鉄等)、化学肥料が減少を続けたほか、板紙(段ボール原紙等)、その他の紙・紙加工品(段ボールシート)、化学繊維等も減少したものの、アルミ圧延品、洋紙(印刷・筆記・図画用紙)、揮発油が増加を続けたほか、有機薬品(エチレングリコール、プロピレン等)、プラスチック(塩ビ樹脂、ポリエチレン等)、繊維原料(テレフタル酸)、紡績、織物、ナフサ、液化石油ガス等も増加を示したため、全体では前月小幅減少のあと増加した。さらに建設財も、土石製品(コンクリート管等)、小形棒鋼等が減少したものの、H形鋼が増加を続けたほか、建設用金属製品(鉄骨、アルミドア等)、セメント、銅電線等も前月減少のあと増加したため、全体でも前月かなりの減少のあと再び増加した。

一方、一般資本財は、金属加工機械、電子計算機が増加を続けたほか、発電機、農業用機械、通信機械等も前月減少のあと増加したものの、特殊産業機械(印刷機械)、繊維機械が減少を続けたほか、土木建設機械、化学機械、産業用電気機械等も前月増加のあと減少を示したため、全体では3か月連続の減少となった。また、資本財輸送機械も小型自動車、普通自動車、トラック、船舶の減少を主因に、前月増加のあと減少した。

(出荷—小幅増加)

2月の出荷(速報)は、+0.9%と前月(+1.8%)に続く増加を示した(前年同月比-2.2%)。

これを財別にみると、資本財輸送機械、耐久消費財、非耐久消費財が前2か月増加のあと減少となったものの、生産財が3か月連続して増加したほか、建設財、一般資本財も前月減少のあと増加した。すなわち生産財は、鉄鋼素製品(銑鉄)、冷間仕上鋼材、板紙(段ボール原紙等)、有機薬品(エチレン、精製メタノール等)が内需低迷、流通・ユーザー筋の買控え等を映じて減少し、ま

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)<sup>(注)</sup>

	55年				55年	56年	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	12月	1月	2月
鉱工業指数	143.4	143.6	140.3	142.6	144.0	144.8	147.0
前期(月)比	4.1	0.1	-2.3	1.6	2.3	0.6	1.5
前年同期(月)比	11.4	9.1	4.7	3.6	3.9	3.5	-0.4
投資財	3.5	1.3	-1.3	-0.1	1.1	-0.1	-0.1
資本財	4.1	2.6	1.5	1.5	1.0	0.6	-0.7
同(輸送機械を除く)	4.3	2.7	0.4	3.0	-0.9	-0.5	-0.3
輸送機械	4.4	2.3	2.5	-1.5	8.3	5.5	-2.6
建設財	1.7	-1.8	-8.4	-2.9	0.4	-2.1	0.6
消費財	5.2	-0.6	0.6	4.4	3.7	3.6	2.3
耐久消費財	7.8	2.3	3.5	5.9	5.7	2.3	4.8
非耐久消費財	2.8	-2.9	-1.6	2.8	2.2	3.7	0.2
生産財	3.6	-0.1	-5.0	0.8	1.8	-0.3	1.6

(注) 通産省調べ。56年2月は速報。  
前年同期(月)比は原指数による。

た、軽油、A重油、B重油、繊維原料(カプロラクタム、テレフタル酸等)も減少したのに対し、アルミ圧延品が増加を続けたほか、非鉄地金(アルミ地金—軽金属備蓄協会の在庫買上げ)、化学繊維(合繊長繊維—輸出増)、プラスチック(ポリエチレン、ポリプロピレン等)、揮発油、織物等も前月減少のあと増加となったため、全体では小幅増加となった。建設財は、土石製品が減少を続けたほか、H形鋼、その他の形鋼、小形棒鋼も減少したものの、建設用金属製品(鉄骨、アルミサッシ等)が前月減少のあとかなりの増加を示したうえ、銅電線、セメント等も増加を続けたため、全体では前3ヵ月減少のあと久方ぶりの増加となった。一般資本財は、特殊産業機械、繊維機械、発電機等が減少し、化学機械、ベルトコンベヤ等も前月著増の反動から減少したものの、製造業設備投資関連の金属加工機械、合理化投資関連の電子計算機、事務用機械等が増加を続けたほか、通信機械、農業用機械等も増加を示したため、全体では前2ヵ月減少のあと増加となった。

一方、資本財輸送機械は、小型自動車、普通自動車、トラックの減少を主因に、前月増加のあと減少した。また、耐久消費財はラジオ・テレビ・

音響装置が国内向けを中心に増加したほか、時計(輸出増)も増加したが、反面、暖ちゅう房熱機器(小型石油ストーブ)が流通筋の手当て一巡から大幅減少となったほか、二輪自動車、小型自動車、光学機械・同部品(カメラ)、民生用電気機械(エアコン等)も前月増加の反動もあって減少したため、全体では前月大幅増加のあと小幅減少となった。さらに、非耐久消費財も、ニットおよび繊維二次製品が増加を続けたものの、浴用石けん、液化石油ガスが減少を続けたほか、灯油も前月増加のあと減少したため、全体では、前月かなりの増加のあと微減となった。

(在庫—増加)

2月の在庫(速報)は、+0.8%と前月かなりの減少(-1.4%)のあと増加となった。この間在庫率指数(50年=100)は、89.4と前月低下(12月 89.9→1月 87.8)のあと再び上昇した。

これを財別にみると、建設財、耐久消費財が減少を続け、一般資本財も前月増加のあと減少したが、他方、非耐久消費財が前月に続き増加したほか、資本財輸送機械、生産財も前月減少のあと増加となった。すなわち、非耐久消費財は、灯油、揮発油、総ゴムぐつ等の増加から前月に続く増加

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)比増減(-)率・%)

	55年				55年		56年	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	12月	1月	2月	
鉱工業指数	139.2	138.5	133.8	136.3	136.9	139.4	140.6	
前期(月)比	3.3-	0.5-	3.4-	1.9	1.6	1.8	0.9	
前年同期(月)比	9.6	6.8	2.4	1.1	1.0	1.7-	2.2	
投資財	2.0	0.4-	0.3-	1.5	2.0	0.0	1.5	
資本財	1.5	2.8	2.7-	0.3	3.4	0.0	1.2	
同(輸送機械を除く)	0.8	2.0	2.6	2.6	-1.8-	0.7	1.3	
輸送機械	0.6	4.8	3.8-	5.1	11.9	1.7-	1.1	
建設財	2.3-	4.4-	6.4-	2.7	-1.1-	0.3	0.5	
消費財	6.1-	0.8-	1.5	4.6	1.2	7.3	0.2	
耐久消費財	8.8	4.2-	2.6	8.0	2.1	10.0-	0.4	
非耐久消費財	3.6-	4.6-	1.5	2.7	2.1	4.1-	0.2	
生産財	2.7-	1.2-	6.2	2.2	0.9	1.3	0.2	

(注) 通産省調べ。56年2月は速報。  
前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)末比増減(-)率・%)

	55年(期末)				55年		56年	
	3月	6月	9月	12月	12月	1月	2月	
鉱工業指数	107.3	110.3	114.2	114.9	114.9	113.3	114.2	
前期(月)末比	1.3	2.8	3.5	0.6	0.7-	1.4	0.8	
前年同期(月)末比	5.0	9.4	10.7	8.6	8.6	7.8	7.5	
投資財	1.9	8.2	4.4	2.3	0.4	0.0-	0.1	
資本財	4.2	6.3	6.4	2.1	-1.3-	0.2	1.8	
同(輸送機械を除く)	5.9	7.5	7.0	1.5	-1.4	1.3-	0.9	
輸送機械	1.6	4.5	5.3	2.8	-1.3-	1.3	5.3	
建設財	0.9	10.2	1.6	1.0	1.6-	0.1-	1.0	
消費財	2.6-	3.4	2.4	0.3	1.3-	1.3	0.9	
耐久消費財	4.4-	2.4	14.2-	1.0	1.0-	4.1-	1.2	
非耐久消費財	0.8-	4.1-	6.9-	2.3	-0.7	1.1	3.5	
生産財	-0.5	4.7	4.8-	0.1	0.7-	1.9	0.8	

(注) 通産省調べ。56年2月は速報。  
前年同期(月)末比は原指数による。

となり、資本財輸送機械も、トラックの増加を主因に前3ヵ月減少のあと増加を示した。また、生産財は有機薬品(エチレン、エチレングリコール等)、化学繊維(合繊長繊維等)、紡績、織物等がメーカーの生産抑制から、また非鉄地金(アルミ地金)も在庫買上げ措置により、いずれも減少したが、反面、揮発油、軽油、A重油や板紙(段ボール原紙等)が流通・ユーザー筋の買控えから大幅増加となったほか、鉄鋼素製品(粗鋼、鋼半製品)、印刷・筆記・図画用紙も増加したため、全体では前月減少のあと再び増加した。

一方、建設財は、減産下のH形鋼、その他の形鋼、小形棒鋼が需要不振を映じて増加したほか、セメントも出荷伸び悩みから増加となったものの、土石製品(コンクリート管、コンクリートパイプ等)が出荷減を減産でカバーし引続き在庫減少をみているほか、建設用金属製品(アルミサッシ等)も減少したため、全体では前月に続く減少となった。また、耐久消費財は、時計が増加したものの、民生用電気機械(電気冷蔵庫等)、二輪自動車、光学機械・同部品(カメラ)、暖ちゅう房熱機器(小型石油ストーブ)が減少を続けたほか、ラジオ・テレビ・音響装置も減少したため、全体では前月に続き減少となった。さらに、一般資本財は、土木建設機械、事務用機械、金属加工機械が増加を続けたものの、特殊産業用機械、電力・通信ケーブルが減少を続けたほか、農業用機械、産業用電気機械等も前月増加のあと減少したため、全体でも前月増加のあと減少となった。

(民間設備投資——2月の機械受注は前月減少のあと横ばい、建設工事受注は減少、一般資本財出荷は前2ヵ月減少のあと増加)

2月の機械受注(船舶・電力を除く民需)は、-0.1%と前月大幅減少(-31.4%)のあとほぼ横ばいとなった。業種別にみると、非製造業からの受注は、建設が前月に続き減少したものの、運輸、金融機関等が増加したため全体では+5.5%と前月かなりの減少(-37.9%)のあと増加した(前年同月比-0.9%)。一方、製造業からの受注は、鉄

### 需要先別機械受注・建設工事受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	55年			55年	56年	
	4~6月	7~9月	10~12月	12月	1月	2月
民需	6,331 (24.3)	5,567 (-12.1)	7,927 (42.4)	9,226 (58.2)	5,760 (-37.6)	5,490 (-4.7)
同(船舶・電力を除く)	4,506 (5.0)	4,323 (-4.1)	5,052 (16.9)	6,051 (50.0)	4,150 (-31.4)	4,145 (-0.1)
製造業	2,634 (11.5)	2,196 (-16.6)	2,707 (23.3)	3,219 (48.2)	2,389 (-25.8)	2,308 (-3.4)
非製造業	3,667 (31.4)	3,351 (-8.6)	5,265 (57.1)	5,978 (63.4)	3,334 (-44.2)	3,230 (-3.1)
同(船舶・電力を除く)	1,959 (1.8)	2,170 (10.8)	2,345 (8.1)	2,832 (52.4)	1,758 (-37.9)	1,855 (5.5)
建設工事受注(民間)	4,138 (-0.1)	3,935 (-4.9)	4,125 (4.8)	4,150 (0.6)	4,561 (9.9)	3,934 (-13.8)

(注) 機械受注は経済企画庁調べ。建設工事受注は建設省調べ(43社ベース)。カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

鋼、化学が前月減少のあと増加したのに対し、石油が前月増加のあと大幅減となったため、全体では-3.4%と前月(-25.8%)に続く減少となった(前年同月比-3.0%)。

2月の建設工事受注額(民間分、速報)は、-13.8%と前月増加(+9.9%)のあとかなりの減少となった(前年同月比-18.0%)。

2月の一般資本財出荷は、+1.3%と前2ヵ月減少(前月-0.7%、前々月-1.8%)のあと増加を示した。これは、製造業設備投資関連の金属加工機械、合理化投資関連の電子計算機、事務用機械等の増加に加え、通信機械、農業用機械等も前月減少のあと増加したためである。

#### ◇小売商況——一進一退の動き

2月の全国百貨店売上高(通産省調べ、前年比、速報)は、寒気滞留による春物需要の出足低調などから+5.4%と前月の伸び(+7.4%)を下回ったが、これには前年が閏年であったことも響いている。品目別には、食料品、雑貨(スポーツ用品等)が比較的順調な売行きを続けているものの、春物衣料品が伸び悩んだほか、家具、身の回り品も依然低調を続けた。

3月の主要耐久消費財の販売状況を見ると、乗用車新車登録台数(軽を除く)は前年比△2.7%と前

月(同 8.0%)に比べ幾分持ち直し気味ながら、5月の物品税上げ前の駆け込みといった影響もあり、実勢は見極め難いとの業界感触。

また、家電製品販売は冷蔵庫、洗濯機等が依然低調ながら、VTRは好調を続け、ラジカセ等音響製品も進入学向け等を中心に順調な売行きを示した。

#### ◇商況の基調——下げ祭り

3月の商品市況は、毛糸、塩ビ、上質紙等が引続き軟化したものの、合繊が小幅続伸となったほか、月央以降条鋼類、非鉄、合板、砂糖が反発するなど、久方振りの下げ祭り商状となった。

これは、国内末端実需の停滞持続のなかで、

- ① 減産強化や出荷抑制など市況でこ入れの動きがさらに広まったこと(形鋼、砂糖)、
- ② 輸成約増を背景にメーカー筋が売腰を強めたこと(合繊、棒鋼)
- ③ 海外関連品では米国金利の軟化やポーランド情勢の悪化を材料にした海外相場高が影響したこと(非鉄)、  
などの事情によるものであるが、このほか
- ④ 一部商品に流通筋の値頃買いの動きがみられ、これも市況反発を支えたかたち(合板、形鋼)。

### 卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(前月(期)比騰落率・%)

	ウエイト	55年		56年		55年		56年			最近月の 前年 同月比
		10~12月 平均	1~3月 平均	11月	12月	1月	2月	3月			
総 平 均	1,000.0	- 1.7	- 0.7	0.1	- 0.2	- 0.5	- 0.2	0	1.8		
食 料 品	140.9	1.4	0.3	0.6	0.6	- 0.4	0.1	0	5.5		
非食料農林産物	18.9	- 5.0	- 2.8	1.3	- 0.4	- 1.3	- 1.8	- 1.7	- 18.9		
織 維 製 品	62.9	- 1.5	- 0.4	- 0.8	- 0.6	- 0.2	0.4	0.4	- 0.5		
製 材・木 製 品	33.6	- 5.6	- 3.9	0.5	- 0.9	- 1.6	- 2.1	- 1.7	- 17.3		
パルプ・紙・同製品	28.9	- 1.8	- 2.8	- 0.6	- 0.7	- 1.0	- 1.6	- 0.4	1.6		
金 属 素 材	12.6	- 6.6	- 5.9	- 1.2	- 0.7	- 4.1	- 2.2	1.6	- 22.0		
鉄 鋼	80.7	- 1.1	- 1.4	- 0.3	- 0.4	- 0.7	- 0.5	0	0.5		
非 鉄 金 属	26.1	- 3.9	- 8.7	- 1.6	- 3.3	- 4.0	- 3.1	- 0.2	- 23.1		
金 属 製 品	37.0	0.5	- 0.4	- 0.2	- 0.1	- 0.1	- 0.3	- 0.2	5.4		
電 気 機 器	73.3	0.1	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0	1.8		
輸 送 用 機 器	74.0	0	0.3	0.3	- 0.2	0.1	0.2	0.2	1.4		
一 般・精 密 機 器	95.7	0.5	0	0.2	0	- 0.1	- 0.1	0.1	2.9		
化 学 製 品	91.1	- 1.4	- 2.1	- 0.6	- 0.3	- 1.1	- 0.8	- 0.4	- 0.1		
石 油・石 炭・同 製 品	102.2	- 0.0	0.4	0.5	- 0.1	- 0.5	1.1	0.6	6.9		
窯 業 製 品	30.5	1.2	0.3	0.7	0.1	- 0.1	0	0.1	6.4		
電 力・ガ ス	25.5	- 4.4	0.1	1.1	0.2	- 0.3	- 0.3	0.1	39.8		
雑 品 目	66.1	0.4	1.2	0.3	0	1.2	- 0.2	0	4.3		
工 業 製 品	816.4	- 0.5	- 1.1	- 0.1	- 0.4	- 0.4	- 0.5	- 0.2	1.2		
大 企 業 性 製 品	579.9	- 0.2	- 0.9	- 0.1	- 0.4	- 0.2	- 0.5	- 0.1	3.0		
中 小 企 業 性 製 品	214.6	- 1.1	- 0.9	- 0.1	- 0.2	- 0.4	- 0.5	- 0.3	- 1.2		
非 工 業 製 品	158.1	- 0.5	- 0.5	0.9	0.5	- 1.0	1.1	0.7	- 1.6		
国 内 品	801.9	- 0.4	- 0.8	- 0.1	- 0.1	- 0.3	- 0.5	- 0.2	3.7		
輸 出 品	94.2	- 1.6	- 0.3	0.7	- 0.4	- 1.3	0.9	1.1	- 5.2		
輸 入 品	103.9	- 2.0	- 0.4	0.9	- 0.4	- 1.6	1.2	1.2	- 5.0		

(注) 日本銀行調べ。

## (卸売物価——保合い)

3月の卸売物価は、前3か月下落のあと保合いとなった(前年同月比+1.8%)。品目別にみると、国内品は繊維、金属素材(鉄くず)が小幅上昇となったものの、電力・鉄鋼向けC重油の値下げ交渉決着(56/1~3月分)や木材、石化製品(エチレン、高圧ポリエチレン等)の下落が響き-0.2%と6か月連続の下落となった。一方、輸出入品は、為替円安化に加え、鉄鋼のトリガー価格引上げに伴う値上げ(輸出品)や貴金属・非鉄地金の海外高(輸入品)もあってそれぞれ+1.1%、+1.2%の上昇となった。

用途別にみると、素原材料は為替円安化を主因に+1.1%の上昇となったが、中間品は、製品原材料、建設材料の下落に加え、C重油の値下りもあって-0.4%と7か月連続の下落となった。この間、完成品は、資本財が小幅下落となったほか、消費財も保合いにとどまったため、-0.1%と53年11月以来久方振りの下落となった。

## (消費者物価——3月&lt;東京都区部、速報&gt;は前月比+0.6%の上昇)

3月の消費者物価(東京都区部、速報)は前月比+0.6%の上昇となった。これは、被服が春物衣料の出回りから上昇したほか、野菜、生鮮魚介等季節商品が値上りしたことによるもの(除く季節商品では+0.4%)。

一方、前年同月比では、住居、食料、光熱等の騰勢鈍化から+6.5%と前月(+6.6%)を幾分下回り、季節商品を除くベースでも同+7.4%(前月同+7.6%)と低下した。

## ◇長期資本収支は引続き大幅流入超

2月の国際収支は、貿易外収支が投資収益の悪化から既往最高の赤字となったものの、輸出の増加を主因に貿易収支が再び黒字に転じた(1,380百万ドルの黒字、前月1,473百万ドルの赤字)ため、経常収支では207百万ドル(前月、2,879百万ドルの赤字)の小幅赤字にとどまった(もっとも、貿易収支季節調整後では1月97百万ドル、2月559百

## 消費者物価指数の推移

(前月(期)比騰落率・%)

	ウエイト	55年	56年	56年			最近月の 前年 同月比	
		10~12月 平均	1~3月 平均	1月	2月	3月		
東	総合	100.0	1.1	* 1.3	1.3	0.2	* 0.6	* 6.5
	季節商品を除く総合	91.9	1.4	* 0.1	- 0.1	0.1	* 0.4	* 7.4
	(季節商品)	( 8.1)	(- 0.6)	*( 14.4)	( 18.3)	( 1.8)	*( 2.1)	*(- 1.7)
京	食料	40.1	1.0	* 3.9	3.9	0.7	* 0.8	* 3.8
	住居	11.1	0.2	0.4	0.1	0.1	0	3.1
	光熱	4.2	- 0.1	- 0.1	0	- 0.1	0.1	38.2
	被服	12.4	5.7	- 2.5	- 2.3	- 0.7	1.7	8.9
	雑費	32.2	0.3	* 0.5	0.5	- 0.1	* 0.2	* 6.1
全	総合	100.0	1.0	...	1.2	0.1	...	6.5
	季節商品を除く総合	91.7	1.2	...	- 0.1	- 0.1	...	7.4
	(季節商品)	( 8.3)	(- 0.9)	( ...)	( 15.6)	( 1.7)	...	(- 2.2)
国	特殊分類							
	農水畜産物	16.3	1.2	...	8.4	1.2	...	1.1
	工業製品	46.6	1.5	...	- 0.5	- 0.5	...	6.2
	うち大企業性製品	21.4	0.3	...	0.1	0	...	5.4
	中小企業性製品	25.2	2.5	...	- 1.0	- 1.0	...	6.9
サービス	33.6	0.5	...	0.6	0.2	...	8.6	

(注) 1. 総理府統計局調べ。  
2. \*は速報。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	55 年			55 年	56 年		前年同月
	4～6月	7～9月	10～12月	12 月	1 月	2 月	
経 常 収 支	△ 4,533	△ 1,011	608	1,131	△ 2,879	△ 207	△ 1,250
質 易 収 支	△ 1,300	2,259	3,759	2,316	△ 1,473	1,380	△ 228
輸 出	30,841	32,663	36,514	14,052	9,184	11,902	9,384
輸 入	32,141	30,404	32,755	11,736	10,657	10,522	9,612
質 易 外 収 支	△ 2,841	△ 2,968	△ 2,810	△ 1,078	△ 1,247	△ 1,495	△ 920
移 転 収 支	△ 392	△ 302	△ 341	△ 107	△ 159	△ 92	△ 102
長 期 資 本 収 支	138	2,092	△ 445	△ 273	1,545	770	1,149
本 邦 資 本	△ 1,603	△ 3,694	△ 3,309	△ 1,147	△ 963	△ 1,089	△ 402
外 国 資 本	1,741	5,786	2,864	874	2,508	1,859	1,551
基 礎 的 収 支	△ 4,395 (△ 3,971)	1,081 ( 243)	163 (△ 669)	858 (△ 287)	△ 1,334 ( 1,448)	563 ( 211)	△ 101 (△ 366)
短 期 資 本 収 支	△ 205	997	1,388	86	367	149	181
誤 差 脱 漏	△ 1,023	69	△ 879	△ 544	919	△ 56	△ 920
総 合 収 支	△ 5,623	2,147	672	400	△ 48	656	△ 840
金 融 勘 定	△ 5,623	2,147	672	400	△ 48	656	△ 840
外 貨 準 備 増 減	4,099	1,126	1,464	296	1,270	183	△ 243
そ の 他	△ 9,722	1,021	△ 792	104	△ 1,318	473	△ 597
外 貨 準 備 高	22,642	23,768	25,232	25,232	26,502	26,685	20,771
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 33,627	△ 32,006	△ 32,816	△ 32,816	△ 34,677	△ 34,222	△ 23,650

- (注) 1. 基礎的収支カッコ内は、貿易収支のみ季節調整した計数。  
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 入 出 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出 信用状
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	
55年 4～6月平均	10,362 (+ 10.6)	10,654 (+ 7.1)	△ 292	10,595 (+ 9.8)	12,061 (+ 6.9)	7,210 (- 1.9)
7～9 〃	10,689 (+ 3.2)	10,215 (- 4.1)	474	10,967 (+ 3.5)	11,536 (- 4.4)	7,588 (+ 5.2)
10～12 〃	11,547 (+ 8.0)	10,572 (+ 3.5)	975	11,898 (+ 8.5)	11,972 (+ 3.8)	7,726 (+ 1.8)
55年 11 月	11,319 (- 0.9)	10,340 (- 2.9)	979	11,662 (- 0.8)	11,346 (- 7.3)	7,735 (+ 2.3)
12 〃	11,902 (+ 5.2)	10,731 (+ 3.8)	1,171	12,279 (+ 5.3)	12,332 (+ 8.7)	7,883 (+ 1.9)
56年 1 月	12,239 (+ 2.8)	10,930 (+ 1.9)	1,309	12,766 (+ 4.0)	12,292 (- 0.3)	8,169 (+ 3.6)
2 〃	12,534 (+ 2.4)	11,506 (+ 5.3)	1,028	12,664 (- 0.8)	12,516 (+ 1.8)	8,979 (+ 9.9)

- (注) 1. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。  
 2. 輸出信用状接受高は、特殊大口を除く。

万ドルの各赤字)。一方、長期資本収支は産油国や欧米年金基金等による対日証券投資の盛行を映じ高水準の流入超(770百万ドル、前月1,545百万ドル<既往最高>)を続け、この結果、総合収支は656百万ドルの黒字を記録した(前月48百万ドルの赤字)。

また、2月末の外貨準備高は26,685百万ドルと11か月連続の増加を記録した(前月末比+183百万ドル)。

#### (輸出——増加)

2月の輸出(国際収支ベース、季節調整済み、前月比)は、+2.4%と3か月連続の増加(12月+5.2%、1月+2.8%)となった。品目別(通関ベース)にみると、重電機器、テレビが前月著伸の反動から大幅減少となったものの、自動車、二輪自動車

が引続き増加したほか、鉄鋼が米国、ソ連向けを中心とした数量増から引続き増加、また船舶も引渡し集中から著伸した。

なお、3月の輸出信用状接受高(季節調整済み、前月比)は、-6.1%と5か月振りに減少した。品目別にみると、化学製品、鉄鋼、電気機械は引続き増加したが、自動車が前2か月著伸のあと大幅に減少した。

#### (輸入——増加)

2月の輸入(国際収支ベース、季節調整済み、前月比)は、+5.3%と3か月連続の増加(12月+3.8%、1月+1.9%)となった。品目別(通関ベース)にみると、羊毛、綿花、鉄鉱石等が減少したものの、高値原油の入着増に加え、石炭もかなり増加した。